



豊玉二中だより

令和4年度 第13号
発行日 2月1日(水)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

なぜ、学ぶのか

副校長 木原賢三

3学期が始まり、早一ヶ月が過ぎようとしています。1月は行く、2月は逃げる、3月は去るといわれ、3学期は瞬間に過ぎてしまいます。より充実した学校生活を送るために、今年度の成果と課題をしっかりとまとめると共に、新しい進路・学年に向けて、力を蓄える学期にしてほしいと願っています。さて、3年生にとっては、希望の進路の実現に向けていよいよ勝負の時を迎えます。なかなか成績が上がらずに、志望校に合格できるかどうか不安な毎日で、自分と真剣に向き合い、ひたむきに受験勉強に取り組んでいる人もいることでしょう。希望の進路を実現し、15歳の春を3年生の皆さんが笑顔で迎えられるように期待しています。

さて、「なぜ、人は学ばなければならないのでしょうか。」学ぶことは入学試験や受験に合格するためだけに学ぶものではありません。

かつて3年生と面接練習で、私が「あなたはなぜ学ぶのですか」という質問をした際、「中学校で英語を学び、修学旅行で外国の方と少しコミュニケーションを取ることができました。自分の話していることが相手に伝わり、とても嬉しかったです。上級学校でさらに英語力を身に付け、世界のいろいろな文化や考えを知りたいと思ったからです。」と答えていました。授業で教師が話したことをただ暗記するだけの学習では、生徒自身が賢くなったと実感することが難しいけれども、生徒が自分から進んでコミュニケーションを図ろうと考えて行った学びは、「知る」ということの喜びや自分が賢くなったということを実感させ、そのことが人を学びに夢中にさせるということを感じました。そして、学びにひたむきに取り組むことが、「新しい世界」を知ることにつながり、そのことが「自分を知る」ことにつながります。

天才物理学者のアインシュタインは、「学べば学ぶほど、自分がどれだけ無知であるか思い知らされる、自分の無知に気付けば気付くほど、より一層学びたくなる」と述べています。さらに、「学ぶことは自分を知ることであり」とも述べています。世の中には自分の知らないことがたくさんあり、知れば知るほど追求したくなる面白いことがたくさんあります。勉強をして知識がなければ、その面白さや自分の夢の実現するチャンスが失われてしまうこともたくさんあります。自分の知識がまだまだ未熟で無知であることが理解出来れば、勉強することによって世界がさらに広がり、面白く感じるでしょう。

中学校で勉強することによって得られた、「考える力」「考える力の基礎となる力」「努力をして自分を高める力」こそが、大人、社会人になっても役に立つのです。考えれば知ることができる。子どもも大人も「そのことはどういうことなのか」という本質を知るために、どこまでも考えていくことが大切なのだ、生徒の学ぶ姿から私も学ぶ毎日です。

本校では、全ての教育活動を通して、変化の激しい予測不可能な未来社会を自立的に生き、自らの可能性を發揮し様々な仲間とともに協働しながらよりよい社会を切り拓き、未来の創り手となるための「生きる力」を育むことを目指しています。そして、「自分探し」に取り組み、学ぶ喜び、分かる楽しさを実感し、学び続ける生徒を育てていきます。令和4年度も残りわずかとなりますが、保護者の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

